

【中学校 第2学年】

平均正答率 (%)

教科	目標値	香取市平均	全国平均
国語	66.1	73.3	69.9
社会	56.0	60.7	57.5
数学	54.6	55.8	54.7
理科	56.7	62.6	57.6
英語	54.0	55.5	54.1

目標値…正答できることを期待した生徒の割合を示したもの

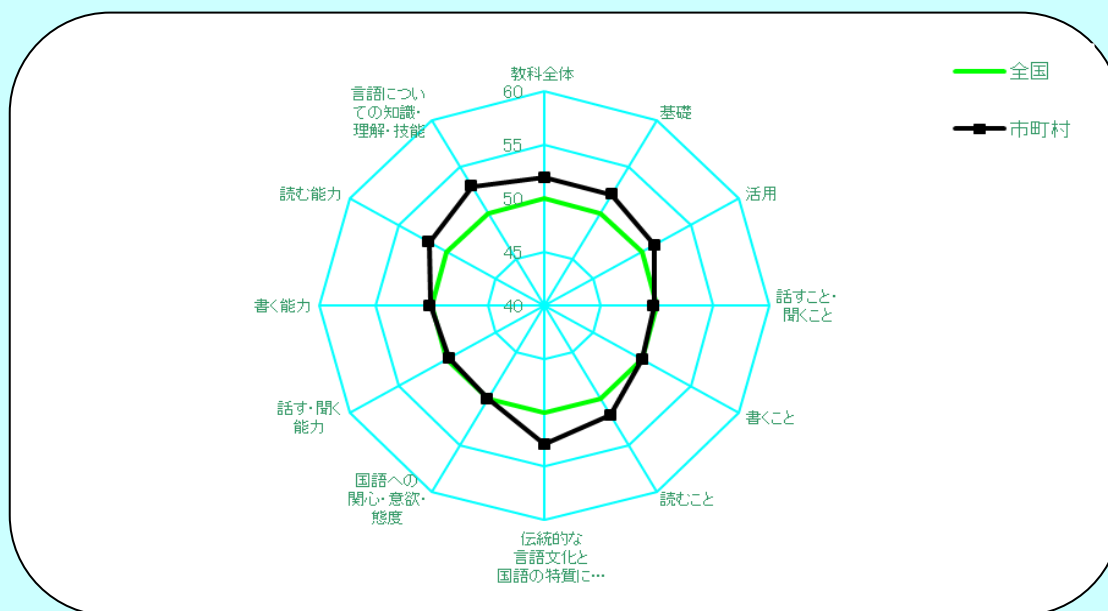
[全体的な傾向]

教科別に市平均正答率と全国平均正答率（以下、全国平均）を比較すると、国語と社会は、今年度も継続して上回っている。数学と理科、英語は、今年度は向上して全国平均を上回る結果となった。

中学校の教科ごとの傾向

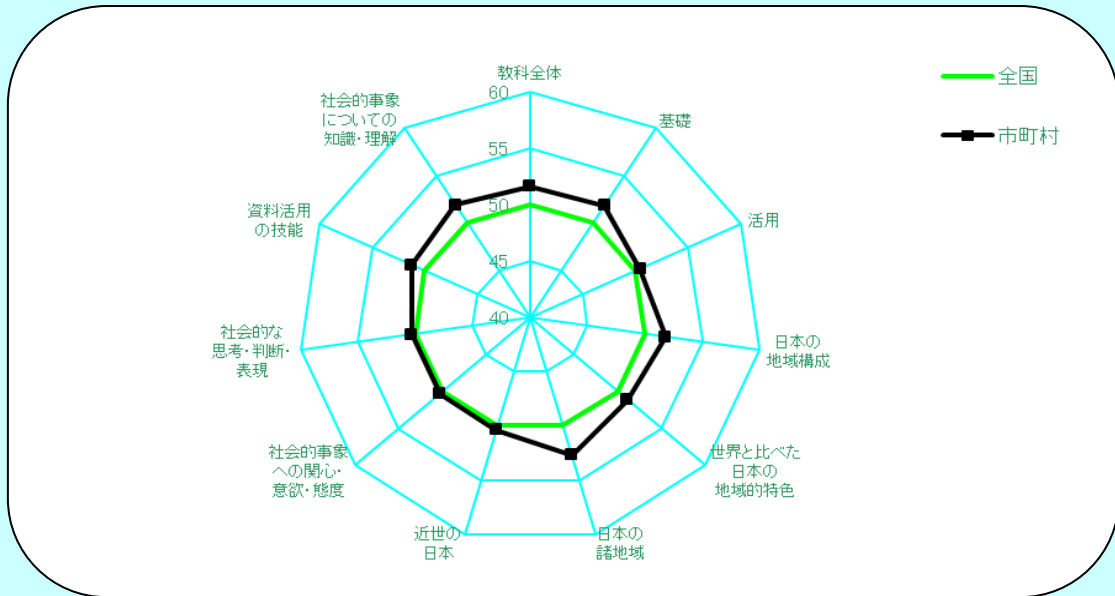
【国語】

※グラフは全国平均を50として、香取市の平均正答率を相対的に表したものです。



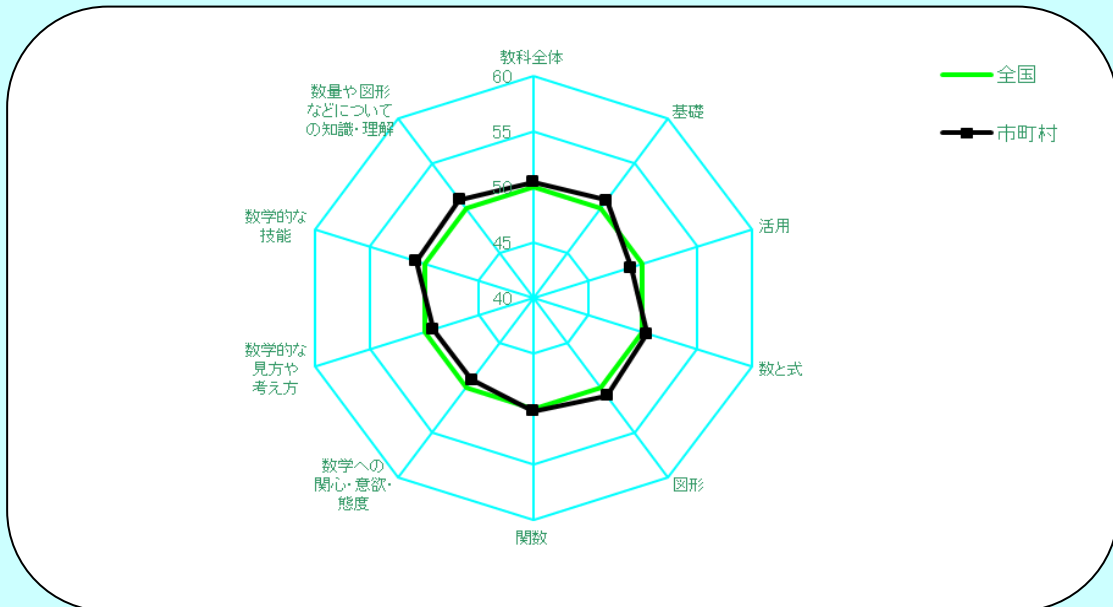
領域別（観点別）では、読むこと（読む能力）、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（言語についての知識・理解・技能）が全国平均を上回る結果であった。書くこと（書く能力）は全国平均とほぼ同程度であり、話すこと・聞くこと（話す・聞く能力）は、やや下回るため「話し手の意見に対して自分の意見を述べる」等の学習活動を工夫する必要がある。

【社会】



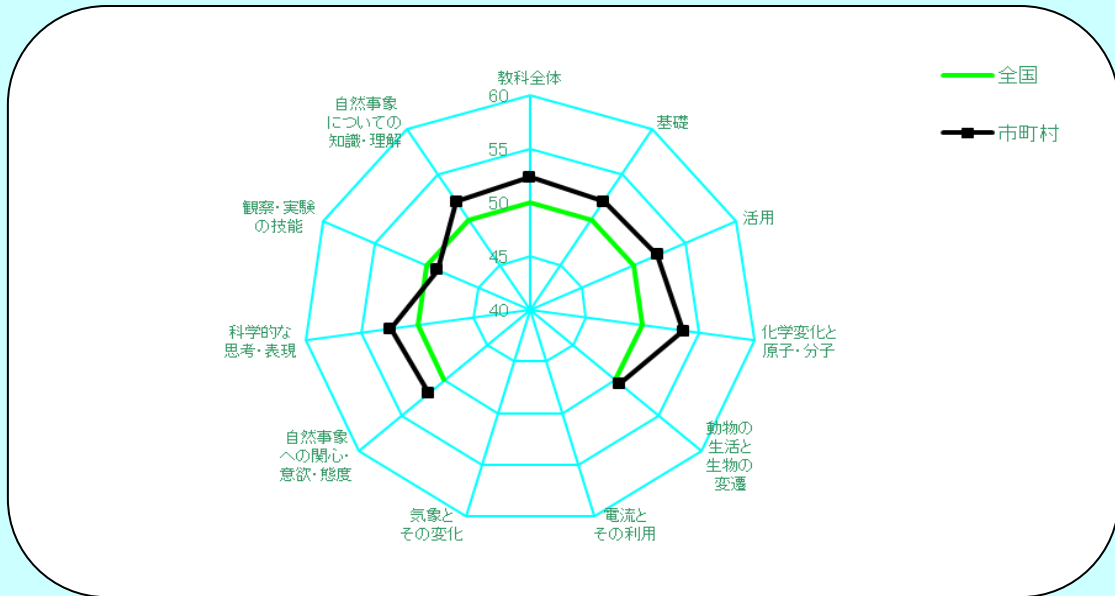
すべての領域（観点）で、全国平均を上回る結果であった。しかし、近世の日本では「鉄砲の伝来に関する歴史的事項」等について、誤答数が正答数を上回る設問も見られるため、西洋の動きについても触れて理解を深めさせる必要がある。

【数学】



すべての領域で、全国平均をやや上回る結果であった。観点別では、数学への関心・意欲・態度、数学的な見方や考え方が全国平均を下回るため、「文章から立式をする」、「グラフから判断し説明をする」等の問題で、数量の関係を読みとれるように丁寧に確認したり、グラフ上の特定の点の意味を踏まえて説明したりする等の機会を増やすことで、無解答の生徒を減らしていきけるようにすることが必要である。

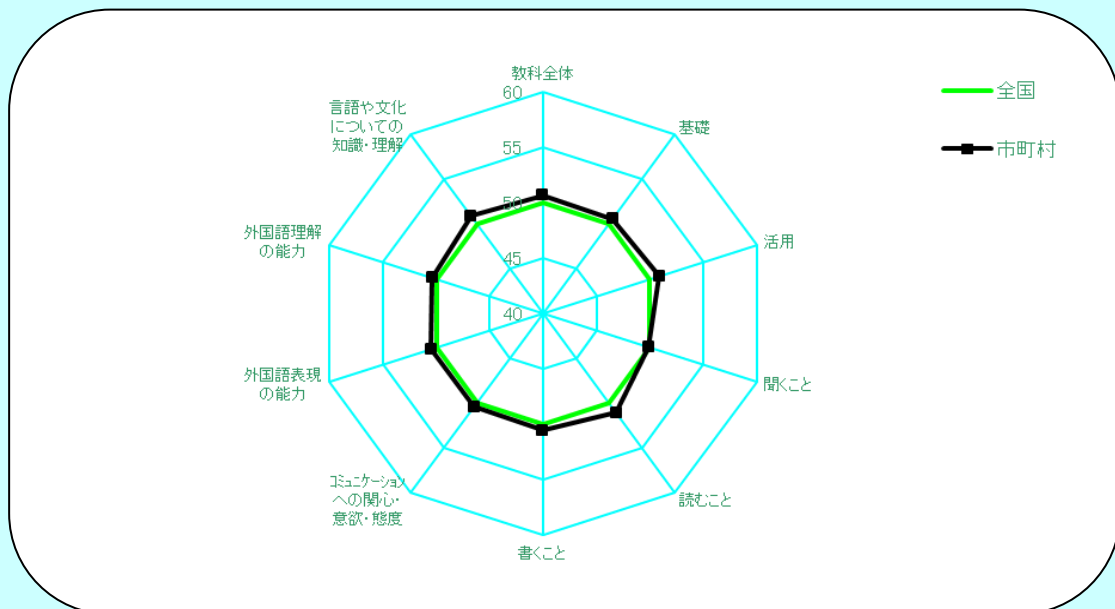
【理科】



すべての領域で、全国平均を上回る結果であった。しかし、観点別では、観察・実験の技能が全国平均を下回るため、物質の成り立ちを調べる「化学変化をみる実験」等では、試験管の口を下げ（上げ）て加熱する意味や理由などを演示するだけでなく丁寧に説明する必要がある。

※ 電気とその利用、気象とその変化は、選択問題のため実施していません。

【英語】



すべての領域（聞くこと、読むこと、書くこと）で全国平均と同程度または上回る結果であった。しかし、リスニングでは全国平均を下回る設問もあり、日頃のコミュニケーション活動を通して、物の位置関係や対話の中から手段を尋ねるなど、適切な応答に慣れさせる必要がある。